

2024年1月

佐伯通信

【熱海だより】

2024年1月

佐伯通信

【近刊予告】



写真提供 佐伯泰英事務所

飛騨高山を旅した。観光用の自転車に乗ってみました

佐伯通信

2024年1月(令和6)
第66号
発行 佐伯泰英事務所
担当/文藝春秋
禁・無断転載

老いた物書き

読者の皆様、明けましておめでとーございます。わが時代小説三百冊目の『恋か隠居か 新・酔いどれ小籐次26』(文春文庫)を刊行致しました。平成十一年(一九九九)一月に『密命 見参!寒月霞斬り』を上梓した折りは三百冊どころか次作の出版が危ぶまれてい

ました。二十五五年間に三百冊、読者諸氏のご協力があれば、あり得ない出来事です。そこで作者から細やかなお礼として、三百冊目『恋か隠居か』および三百一冊目の『芋洗河岸1 陰流苗木』(光文社文庫)にプレゼントが挟み込まれています。文春文庫と光文社文庫の協力を得て、それぞれしおりを送りしました。一冊目の『密命』は祥伝社文庫に始まり、三百冊まで多くの出版社の力添えがなければできないことでした。改めてこの「佐伯通信」の場を借りてお礼申し

佐伯泰英／近刊のお知らせ

夏	3月 13日	2月 14日	1月 11日
短期集中新シリーズ! 《文春文庫》	芋洗河岸 3 『未だ謎(仮)』 【完結】 ※発売日は予定です。	芋洗河岸 2 『長屋の騒ぎ(仮)』	芋洗河岸 1 『陰流苗木』 《光文社文庫》

▼ 文春



▼ 光文社



PCやスマホでも / 佐伯作品が電子書籍で読めます!

2024年1月

佐伯通信

【PR】

出版社からのお知らせ 文春文庫・光文社文庫

佐伯泰英 「時代小説300冊」達成 記念企画

佐伯泰英 時代小説 300冊

佐伯先生から読者のみなさまへ

感謝を込めて作成した特製しおりを300冊目『恋か隠居か 新・酔いどれ小籐次26』と301冊目『芋洗河岸1 陰流苗木』に全読者プレゼントとして封入します。(初回出荷分のみ)

◆ 1月15日～4月15日
話題のアプリ「大江戸今昔めぐり」内で《佐伯泰英作品で江戸めぐり》スタンプラリーを実施します。
江戸末期の古地図と現代図を重ねて表示可能な地図アプリ「大江戸今昔めぐり」内で、佐伯作品にちなんだスポットをめぐって楽しんでいただけます。ラリーの完走者には特製の「完走証明書」をプレゼント! ※より詳しい内容については1月11日発売の光文社文庫『芋洗河岸1』にお知らせが入ります。文春・光文社HPにでもご確認ください。

◆ 1月6日④・13日④
読売新聞朝刊に全面広告掲載
特別撮影した佐伯先生の近影、メッセージ、2024年の予定など盛りだくさんの2週連続! 特別企画です。ぜひご覧下さい。

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
<https://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2024年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が㈱光文社、㈱文藝春秋の協力のもと発行します。

2024年1月

佐伯通信

【熱海だより】

さあて八十二歳がすぐそこに迫った筆者、愚直にも書き続けるしか読者諸氏および版元各社に伝える術はない。とはいえ判断力・記憶力がとみに薄れて主人公の名を忘れ物語がどこへ向かうのか、判断がつかないことがしばしばございます。その昔のことです。私が写真家時代、作家の堀田善衛先生がスペインのグラナダに逗留なされており、居候をしていたことがございます。あるとき、先生が不意に、「佐伯、新聞小説を連載していたときな、主人公をいきなり死なせてしまつてな、後始末に困つたぞ」ともられました。編集者も校閲もいるだろうに(そんな馬鹿な話があるか)と思つたものです。だが、ただ今の自分を考えると(ありうるかな)と先生の、ぼそつとした独白を久しぶりに思い出しました。それともあの言葉はスペイン暮らしの退屈を紛らすジョークだったのでしょうか。

短期集中新シリーズ、1月より開幕!

時代小説301冊目 新たなヒーロー、ここに見参!
美濃国からやってきた小此木善次郎の凄剣が乱麻を断つ――

『芋洗河岸』

1月刊の第一巻「陰流苗木」から3カ月連続刊行

出版社からのお知らせ 光文社文庫